

2020年度第4回経営協議会議事要旨

- 日時 2020年11月16日（月） 15:00～17:05
- 場所 Zoomによるオンライン会議
- 出席者 田中 雄二郎学長、
氏家 純一委員（学外委員）、遠藤 信博委員（学外委員）、
河村 潤子委員（学外委員）、福田 誠委員（学外委員）、
佛淵 孝夫委員（学外委員）、宮崎 隆委員（学外委員）、
山口 寿一委員（学外委員）
渡邊 守委員（改革・連携担当理事）、
若林 則幸委員（教育・国際交流担当理事）、
大川 淳委員（医療・情報担当理事）、
木村 彰方委員（研究・評価担当理事）、
今村 聡子委員（事務総括・男女共同参画担当副学長、事務局長）
- 陪席者 瀬下 明学長特別顧問
鐘江 康一郎理事（IT化・業務改善担当）、
藤谷 茂樹監事、岸上 恵子監事、古川 副学長、
廣川 和憲オープンイノベーション機構総括クリエイティブマネージャー、永田 昭浩総務部長、米澤 聡司財務部長、柴田 大施設部長、
横山 直樹統合教育機構事務部長、
秋葉 泰樹医学部附属病院事務部長、
今泉 静雄歯学部附属病院事務部長、
白谷 正洋戦略企画課長、荒川 徹統合研究機構事務長
- 欠席者 山口 武兼委員（学外委員）

○ 確認事項

1 2020年度第3回経営協議会議事要旨（案）について

田中学長から、2020年度第3回経営協議会議事要旨（案）について、資料1に基づき確認を行い、原案どおり承認された。

○ 審議事項

1 ガバナンス・コードにかかる適合状況に関する報告書（案）について

今村事務局長から、ガバナンス・コードにかかる適合状況に関する報告書について、資料2-1から資料2-4並びに参考資料1から参考資料5に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

また、氏家委員から、大学総括理事の職務について質問があった。この質問を受けて、今村事務局長から、大学総括理事は主に教学を束ねることが想定されているが、大学経営から排除されているわけではない旨の説明があった。

2 2021年度以降の人件費削減計画の凍結について（案）

今村事務局長から、2021年度以降の人件費削減計画の凍結について、資料3-1から資料3-3並びに参考資料1から参考資料3に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

また、佛淵委員から、教育研究の機能は重要であることから教員の人件費を減らすことは難しいと思うので、国に対して政策としてどのように考えているか働きかけを行う必要がある旨の発言があった。

宮崎委員から、きめ細かい教育による次世代の育成にあたり、教育の現場では人が足りず疲弊していることから、人員削減を行わないという計画の見直しは必要である旨の発言があった。

瀬下学長特別顧問から、人件費削減計画の凍結に加えて、コロナを機に業務全般の抜本的な見直しも行い、医療者の精神的疲労や肉体的疲労にも対応していく必要がある旨の発言があった。

3 2020年度人事院勧告への本学の対応について（案）

今村事務局長から、2020年度人事院勧告への本学の対応について、資料4に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

また、河村委員から、人事院勧告は官民のバランスを取るために行われ

ているので、人事院勧告に対応しないことについて、対外的に誤解を招かないよう明確な説明の用意が必要である旨の発言があった。

4 役員賞与の成績率の決定（案）について

田中学長から、役員賞与の成績率の決定（案）について審議願いたい旨の提案があり、支給対象の理事及び陪席者が退室した後、資料5-1に基づき、田中学長から説明があり、審議の結果、理事及び監事の賞与の成績率について原案どおり決定した。

続いて、退室していた理事の再入室後、田中学長から、学長の賞与の成績率について審議願いたい旨の提案があり、議事進行を山口寿一委員へ依頼した。その後、田中学長が退室し、資料5-2を参考にした審議の結果、学長の賞与の成績率について決定した。

○ 報告事項

1 附属病院に係る新型コロナウイルス対応状況及び運営方針について

大川理事から、附属病院に係る新型コロナウイルス対応状況及び運営方針について、資料6に基づき説明があった。

また、佛淵委員から、早期から最悪のシナリオを想定して問題が整理されてきており、現場に無理をさせ過ぎず、現在の運営方針で良いのはいかとの意見があった。これに対して田中学長から、本学は東京都の中で重症患者を多く受け入れてきており、最近では断らなければならないケースも発生しているため、本学以外にも受け入れていただけるよう東京都を通じて働きかけている旨の説明があった。

福田委員から、2021年度稼働額は2019年度と同等またはそれ以上となるか質問があった。この質問を受けて、大川理事から、医学部附属病院はコロナ禍ではICUの稼働が制限されるため2019年度に追いつくことは難しいが、できる限りその差を縮めることや、歯学部附属病院は手術料を含めて、外来患者数が戻れば例年通りの稼働額となる可能性がある旨の説明があった。

2 今後の稼働見込み及び財務見通し等について

米澤財務部長から、今後の稼働見込み及び財務見通し等について、資料7に基づき説明があった。

また、遠藤委員から東京都の補助金の今後の動きについて質問があった。この質問を受けて、米澤財務部長から、12月に単価のかさ上げ等について審議される予定であり、その上で3次補正などの動向を注視しながら国の施策へ反映されるよう働きかけを行っていきたい旨の説明があった。この説明を受けて、遠藤委員から、本学の取組が常に見える形となるよう精力的に情報を発信していくことが必要である旨の意見があった。この意見を受けて、田中学長から、行政当局への働きかけのみならず、国会議員の方々に見学に来ていただき、メディアにも働きかけたことが日本全国のコロナ対応に携わる医療機関への支援に繋がったと考えられるため、今後もパイプを有効に活用して働きかけていきたい旨の説明があった。

さらに遠藤委員から、費用のかけ方として医療者への教育も行っていることについて数値があれば示してはどうかと提案があった。

氏家委員から、上手く行かなかった場合のコミットメントラインは毎年継続しているかについて質問があった。この質問を受けて、米澤財務部長から、コミットメントラインではないが、当座貸越により最大41億円の約定を結んでおり、中期計画の規定により33億円を限度額として資金調達が可能となっている。なお、本約定は双方に特段の意思表示がなければ12か月単位で延長することとしている旨の説明があった。

福田委員から、若手を中心とした科研費獲得について、他大学と比較した時に競争力のある内容となっているか質問があった。この質問を受けて、木村理事から、国の施策でここ数年、若手の科研費採択を増やすこととなっており、他大学も若手の採択数増加を狙っているが、本学はURAが若手に対して添削を行って着実に採択率が向上しており、それに打ち勝っている旨の説明があった。

3 指定国立大学法人の審査結果について

渡邊理事から、指定国立大学法人の審査結果について、資料8-1から資料8-5並びに参考資料1及び参考資料2に基づき説明があった。

また、氏家委員から、中長期的視野に立った成長資金の獲得の検討が必要である旨の発言があった。

4 世界大学ランキングの分析について

古川副学長から、世界大学ランキングの分析について、資料9に基づき説明があった。

また、田中学長から、世界大学ランキングが横ばいまたは低下傾向にある理由について質問があった。この質問を受けて、古川副学長から、全体としてはあまり下がっていないように思えるが、研究力が落ちており、早急な対応が必要である旨の説明があった。

(以上)